# おかのうえ D.I.O TABLE 視察レポート

できるだけ いろんな人と おしゃべり




「おかのうえ D.I.O TABLE」で検討しているセンター跡地に必要な役割や要素、運営方法などについて他地域の事例を学びに行く視察が開催されました。このレポートでは当日の様子をお伝えします。

## 開催概要

日 時：令和 8 年 8 月 30 日（日）
場 所：　東村山市萩山公園
　　交流拠点「はぎま」
主 催：　日野市
協 力：　studio - L

## 視察の目的・ねらい

- 施設形態や、空間条件が違うことを考慮しつつ、本事業で参考になりそうな取り組みや運営方法を学ぶ
- 学んだことを、センター跡地の方針に活かす

## 当日のスケジュール

13:30　平山台健康・市民支援センターから出発
14:50　萩山公園到着
15:00　担当者挨拶～案内（屋外・屋内）
17:00　会場出発
18:30　平山台健康・市民支援センターに到着

## 萩山公園の概要

2025 年 4 月末に、東村山市萩山公園内にオープンした新施設「はぎま」。新しい施設は、近隣企業が公園の運営に関わり、公園管理事務所、公園の拠点、アンテナショップが共存し、毎月第 3 土曜日に「萩山マルシェ」などが定期的に開催されている。地域の農家の野菜を小さなテントで販売することから始まったこのイベントは、出店者数を増やしながら、今では近所の子どもたちがお手伝いをしてくれたり、常連が増えたりしている。またコミュニティガーデンや、防災ベンチ等の設置、広場なども整備がされた。

## 施設の成り立ち

視察見学では、相羽建設の遠藤さんにお話しいただきました。



相羽建設　遠藤さん

「萩山公園は、もともと大学の所有地であった敷地を東村山市が取得し、地域の「一時避難場所」を兼ね備えた公園として整備されました。整備にあたっては**市民参加のワークショップが開かれ、基本構想に地域の声が反映**されています。
東村山市では市内約 170 箇所の全公園を一括管理する「包括的一括指定管理者制度」を導入しており、日比谷アメニスを代表とするコンソーシアムが全体を受注しています。その中で地元工務店である相羽建設が地域パートナーとして参画し、萩山公園の管理事務所運営を分担受託しています。
さらに公園敷地の一部を活用し、同社が自前で民間投資（Park-PFI 事業）を行って建設したのが、木造平屋建ての地域拠点「はぎま（萩山の『居間』の意）」です。市へ土地占用料を支払いながら、**直営カフェやスペース貸出、自主企画イベントなどを展開し、独立採算での運営**を続けています」

## 空間づくりの工夫

### 命を守る「防災井戸」と公園の水循環



敷地内には地下水を汲み上げる防災井戸が掘られており、平常時の樹木や花壇への水やりに活用されています。この井戸水は有事の際、敷地内のマンホールトイレへ直接配管を接続することで、下水道が遮断されても水洗として機能する仕組みになっています。「日常的な水との触れ合いが、災害時の命綱に直結する」というフェーズフリーな工夫です。また、何気なく使っているベンチがかまどベンチだったりと、いざという時の防災設備も備えています。




### 「収穫」ではなく「おしゃべりと協働」を目的とするガーデン

園内のコミュニティガーデンは、貸し農園ではなく、「みんなで一緒に種をまき、世話し、収穫を祝う」シェア型で運営。足腰に負担が少ない高床式花壇も導入され、高齢者から子どもまで約 40 組が参加。参加者同士は LINE グループを通じて「今日水やり完了しました」「トマトが色づきました」など日々の様子を自然に共有し合っています。また、園内の一角に残された武蔵野の雑木林エリアには、木の枝で組んだ落ち葉プール「バイオネスト」が設置されています。集めた落ち葉を腐葉土へと循環させ、園内の畑の土に還す取り組みを実践しています。

### 誰もが排除されないインクルーシブな環境

体をしっかりホールドできるシート型の「インクルーシブ・ブランコ」が設置されており、障がいのある子どもや身体を支えにくい幼児も安全に遊ぶことができます。また、誰でも気兼ねなく利用できる冷暖房完備のベビールーム（調乳用給湯器やおむつ替えスペース）が整えられています。





### 木の温もりと手仕事が息づく空間設計

地域工務店としての技術を活かし、良質な多摩産材などを随所に配した心地よい木造建築となっています。既製品で固めるのではなく、職人技による造作家具や手づくりのメニュークリップ、木製端材を活用したクラフトパーツの量り売りなど、日常にものづくりの楽しさを感じさせる設えが特徴です。

## 運営の工夫や広がり





### 「いつも誰かがいる」常駐管理の安心感

年末年始を除き、朝 9 時から夕方 17 時までスタッフが常駐。単なる窓口業務にとどまらず、公園で遊ぶ子どもたちの見守り役や、散歩に訪れるシニアの話し相手になるなど、顔の見える関係性が公園全体の防犯や安心感を支えています。スタッフは地元採用で、カフェのメニューなども一緒に考えます。

### ラジオ体操や日常の見守りから生まれる顔なじみ

毎週末の朝にスタッフが始めたラジオ体操は、口コミで広がり今では地域住民 30 名以上が集まる朝の習慣に。スタンプがたまるとカフェのドリンクがサービスされるなど、ちょっとした楽しみも用意されています。

### 地域住民の「やりたい」をサポートし、いざという時協力しあえる関係へ

公園内で集めた落ち葉を腐葉土にする「バイオネスト」づくりや、秘密基地づくりのワークショップを住民と実践しています。また、自治会と連携した大規模な防災イベントも開催。公園に整備されているかまどベンチやマンホールトイレ、ソーラーパネルの充電スポットなどの周知にもつなげています。

さらに、定期的な「萩山マルシェ」での地元農家の野菜販売や、行政に許可を取って実施した夜の手持ち花火大会、バイオリン演奏会や野点の開催など、住民の「やりたい」に寄り添った多彩な催しを通じて関係性を深めています。



自治会が管理する防災倉庫も公園内にある

### 萩山公園に集まる人々

萩山公園には駐車場がないため、利用者の中心は徒歩や自転車圏内のご近所さんです。しかし、西武線の駅から近い立地もあり、数駅先から電車で訪れるリピーターも増えています。

**午前～昼過ぎ**

未就学児を連れた親子連れ、散歩がてらベンチで読書や日向ぼっこを楽しむ高齢者、愛犬の散歩仲間が集まります。ベビーカーのままカフェに立ち寄って交流するなど、穏やかな地域の憩いの場となっています。

**夕方（放課後）**

小学生や中学生が自転車で次々と集まります。宿題を広げたり、携帯ゲームを持ち寄って遊んだり、時にはスタッフと鬼ごっこをしたりと、安全な「放課後のたまり場」として定着しています。

**週末 イベント時**

毎月第 3 土曜の「萩山マルシェ」や、夏の手持ち花火、秋の収穫祭などのイベント時には、普段公園を訪れない層や遠方からの家族連れも大勢集まり、多世代が利用しています。

## 教えて！質疑応答タイム

### Q. カフェなどの飲食事業だけで黒字になるの？

初年度の売上から、占用料や人件費を考えると、飲食単体で大きな利益を上げるのは容易ではありません。しかし弊社の本業は地域の工務店です。公共の公園という開かれた場所で日々住民と顔を合わせ、「何か住まいの相談があればあの人に聞いてみよう」と思い出してもらえる**関係性を築くこと自体が、最大の企業価値**につながっています。「大きな利益を一気に追うのではなく、小銭がチャリンチャリンと回り続け、**本業にも長く還元される持続可能な仕組み**」を大切にしています。



### Q. 公園の共通ルール（火気厳禁、ボール遊び等）と、実際の運用のすり合わせは？

市の条例上、火気使用やノーリード、周囲に危険が及ぶ球技は禁止されています。しかし一律に看板で「禁止」と縛るだけでは、公園の楽しさが失われてしまいます。そのため行政と丁寧に協議を重ね、**「自主事業」として市の占用許可を取ることで、夏の夜に親子で楽しむ「手持ち花火イベント」を実現**させました。日頃の子どもたちのスケートボードやボール遊びに対しても、危険な場合を除き**頭ごなしに排除せず、スタッフが見守りながら声をかけ**、状況に応じた柔軟な調整を行っています。



### Q. 近隣のマンションや病院、地元自治会との信頼関係はどう築いている？

公園のすぐ隣には大規模マンションや病院があります。イベント開催時には事前にチラシをポスティングし、掲示板に案内を掲示してもらうなど**丁寧な事前周知**を欠かしません。また、**地元の自治会とは防災イベントを共同開催**したり、地域の秋祭りでは「神酒所（お神輿の休憩所）」としてスペースを提供したりと、既存の地域行事でも使ってもらえるようにしています。

## 参加者の感想

> 「木の香りがして、とても居心地が良いですね。プレハブの管理事務所とは全く違って、民間の大工さんの手仕事が入るだけで、公園全体の空気がここまで温かくなるのかと驚きました。」

> 「防災井戸が本当に素晴らしいアイデアだと思います。普段から畑の水やりで使い慣れているからこそ、震災が起きたときにも地域のみんなが迷わず活用できますね。」

> 「遠藤さんの『目先の飲食売上だけでなく、地域で顔なじみが増えることが本業にも返ってくる』という言葉に深く納得しました。行政と地元企業がこのような健全な信頼関係を結べると、まちづくりはもっと面白くなりますね。」